令和3年度第2回志摩市子ども・子育て会議議事録

日時：令和4年2月21日（月）

17:30～19:00

事務局：開会あいさつ

会 長：あいさつ

事務局：委員18名中15名出席

参加者過半数以上の出席を確認したため、会の成立を報告。

配付資料の確認

会 長：議事の進行

事務局：志摩市における子ども・子育て支援サービスの見込み量（需要量及び確保の方策）の状況について資料1を説明。

会 長：ありがとうございました。

今、見込み量も含めた状況の説明がありました。

所々にやはり新型コロナの影響が出ているということがいえると思います。

しかしながらその計画に基づいて行われていることや、最終的な判断はこれからなると思いますので、大体この方法で進んできているのではないかなというふうに思いますけれども、委員の方々の方で何かご質問等があれば、どうぞお話しください。何かございませんか。

今のところ説明いただきましたけれども、私の方から一つお聞きしたいのですけれども、今年は計画からちょうど2年経ってですね、これから3年目に入っていくということかなと思うのですけれども、確か見直し期間に入ってくるのではないかっていうふうに思うのですが、こういった新型コロナの様に予期せぬ形で事業そのものに大きな影響を及ぼしてくるといったことも、何か災害も含めてですけども、今後予想されるのではないかなというふうに思っています。

ですので、見直しの時にその枠を広げていくっていうのでしょうかね。利用者が少なくても多くてもその枠の中で、うまく収まるような見込みっていうのも今後、考えていく必要があるのではないのでしょうか。

事務局の方で何かそのことで、ご意見ございますか。

事務局：そうですね。

やっぱり子育て支援については、新型コロナの関係で利用者の利用控えみたいなものがあつたように思います。

私たちも今、感染対策を取りながらなるべくご利用を制限しないような形で、どう

やったら利用者の方に安心して利用していただけるかなっていうところは、子育て支援センターとか、保育所、幼稚園も含めてですけども、日々、先生方と話し合いをしながら進めて参りました。

さらにまた、コロナ渦のこの中で、ご不安をお持ちの子育て中の方も見えると思いますのでそういったところの声を拾いながら、こういった計画にも反映できるように、この子育て会議の方でご審議いただきたいなと思います。

会 長：ありがとうございます。

そのようにしていただけると大変ありがたいと思います。

全体としてですね、やはり柔軟性を持って対応をしていくということがこれから更に求められるかもしれません。

ですので、そういった危機管理的なところでもこの事業計画のあり方をこの会議を通して、考えていきたいなというふうに思っています。

ありがとうございます。

他の委員の方でどうでしょうか、ご質問等ございますか。

よろしいでしょうか。

それでは、(2)の方に移ってよろしいでしょうか。

令和3年度の主な事業実績について、それぞれの担当課の方から順番にですね説明いただけるかと思うのですが、資料1-1から資料1-6がそれに当たるかなと思っているのですが、どうでしょうか。

事務局：それでは資料1-1から資料1-6までの主たる事業について順番に各課から説明をさせていただきます。

(こども家庭課から資料1-1について説明)

(健康推進課から資料1-2について説明)

(教育総務課から資料1-3について説明)

(学校教育課から資料1-4について説明)

(総合教育センターから資料1-5について説明)

(生涯学習スポーツ課から資料1-6について説明)

会 長：はい。ありがとうございます。

それぞれ課からこの、子どもたちに対する対応がなされたわけですけども、先ほどから繰り返し出てきましたけども、やはり新型コロナの影響っていうのが、やはり色濃く残ってるなというのは全体的な印象としてありますけれども、委員の方々は何かこういうことを聞いてみたいとかですね、ご質問があればどうぞお願いします。

どうぞ。

委 員：私は今、磯部と浜島の児童クラブを担当しています。

ドンカラ磯部放課後こども教室にも関わっていますが、放課後児童クラブが主に

なっていて、第1期、第2期を通して施設整備の関係、新築等だいぶ進めていただいて、放課後児童クラブ自体はなかなかいい環境になっているのかなと思います。

先ほどからの説明の中で、このコロナ渦において、現場対応で困っていることがあります。保護者の方も困っていることがあります。情報伝達の点で、情報が錯綜しているといえますか、今期で言えば、分散登校という時期がありました。この時に、ご兄弟がいる家庭で、朝行くのが弟さんで、お姉さんが昼から行くような場合に、どこに子どもを預けたらいいのか、みたいな事が結構問題になっていて、現場である私どもの方にも質問がきます。ただ、現場の方で判断できないところになったときに、当然、学校と教育委員会、こども家庭課さんですり合わせしていただいたと思うのですが、どっか1ヶ所、ここに聞いたら大丈夫だっという場所を作っただけだとすごくありがたいんですが。今後も必要となる可能性がありますので、もし出来るのであればありがたい。

あと、情報のアップデートをお願いしたい。第1波と第6波ではだいぶコロナウイルスも変異しているので、第1波の時は、接触感染が危ないとの話が出てきました。第6波の時は、そういうことは若干言われなくなっているんで、何らかの方法で情報発信していただくと保護者の方も安心できるでしょうし、ありがたいと思います。

その辺、どうかなと思ひまして質問させていただきました。

事務局：ありがとうございます。

まず、こども家庭課からご説明をさせていただきます。

今回、小学校、中学校の方で夏休み明けが、まず分散登校という形で決まりました時に、学校でもそういった対応されたのが初めてのことでありますし、受入れる側の放課後児童クラブでもこういった対応ができるのかということで、学校教育課とは情報共有もしてきたところではあるんですけども、どちらが保護者に発信するのか、どちらからどうやってお伝えするのかっていうところでちょっと手間取った部分はあったのかなあとは思っています。また、そういった事態になった場合には、学校教育課と小学校とも連携を取ってきまして、情報の方は、正確にお伝えできるように対応はしていきたいかなとは思っています。

事務局：はい。学校教育課です。

すみません。少し音声がうまく聞こえなかった部分がありますので、外している部分がありましたら、ぜひご指摘いただければと思います。

情報の共有、発信の部分につきましては、関係する所との連携、情報共有について心掛けてやってはおります。

ただ、臨機応変といいましょうか、その時その時の状況の中で、手探りでやっていた部分の中でご迷惑をおかけした部分もあったかなと思います。

そういったことがないように、こども家庭課の先ほどの話と重なりますが、情報が入ってきた初期の段階から情報の共有をする。それから、密接な連携をしてい

く。そういった取り組みについては引き続き力を注いでいきたいと考えております。

それとあと少し関連するのですが、情報を発信するに当たりまして、例えば学校が発信をするときに、この内容は放課後児童クラブにも関係する内容だねっていうときに、別々で発信するよりも、学校が発信する時に放課後児童クラブの関係部分も発信をする、その内容によって、全てが全てではないかと思うんですが、共通する内容については、一緒に発信をする、そういった取り組みの方を進めてきております。

そういった中で、情報発信につきましては、しっかりやっていきたいと考えております。

以上です。

事務局：ありがとうございます。

質問者の方がそれでよろしいでしょうか。

委員：はい、結構です。

会長：はい。それでは、次の方どなたかいらっしゃいますか。
どうぞ。

委員：分散登校のことが話題になりましたので、ちょっと学校現場からの意見を言わせていただきたいなと思います。

昨年度は臨時休校の時に、子どもが自宅で誰も見てもらえない人がいない、そういう子どもたちについては、小学校の方に勤務している介助員が学校へ来てもらって、預かりをするっていう体制をとったと聞いています。

今年は分散登校っていう形で、学校は普通の授業を、子どもたちは半分になりますけど、やっていたんですね。ということは教員も介助員もそこに当たる業務があった。

その中で、家で子どもたちを見てもらえない家庭についてどう支援するかっていうので、これも学校教育課さんもこども家庭課さんも本当にご苦労いただいたのはよく聞かせてもらっています。

ただ、やっぱりしんどいお家ほど、その部分の負担っていうのが大きくなる訳で、もしあの時に、こういうふうな体制で子どもたちを見ることができますよっていうことをきちっとPR出来ていたら、もっとたくさんの利用者が出たのだろうなっていうふうに思います。

ですので、経済的に厳しかったりするご家庭も無理して、子どものためにと休んでいただいたりとか、どこかに無理して遠くまで預けに行くとか工夫をしていただいた家庭が少なからずあると思います。

会長が最初に言っていたように、臨機応変な対応が取れたらなあって本当に切に願います。

非常に難しいことがたくさんあるっていうのは、聞かせてもらいましたが、何とかですね、また同じようなことが起こった時に、臨機応変に対応できる体制を、学校教育課と子ども家庭課と協議していただきながら進めてもらえるとありがたいと本当に思いました。

これは7つの小学校、どこも同じような思いだと思いますので、どうかよろしくをお願いします。

以上です。

会 長：学校教育課の方、何かご意見ありますか。

事務局：はい。その辺りにつきまして、しっかり子ども家庭課とも相談、協議させてもらいながら、今おっしゃっていただいた意見の方は、しっかり踏まえたいと考えております。

会 長：ありがとうございました。

そういう状況がいろいろこれからも予想されますので、柔軟に対応していけるような体制づくりも必要かなというふうに思っています。

ありがとうございます。

他の委員の方どうでしょうか。ございませんか。

どうぞ。

委 員：子育て世代包括支援センターについてもうちちょっと詳しくお話を聞きたいと思うのですが、面接して支援プランを作成するっていうことですが、これは一人一人について、支援プランを作成するのでしょうか。

人に対して相談をすることってというのはなかなか難しいお母さん達にこんなふうには妊娠期から関われるっていうことはすごく、お母さん達にとっての安心感に繋がると思うので、すばらしいことだなとは思っています。

私の子どもにも子どもが出来るかも知れないので、そんな時に、この子育て世代包括支援センターに行ったらいいのだよっていうことを伝えられるとは思いますが、もうちょっと詳しく聞かせてもらえますか。

会 長：ありがとうございます。担当課の方ご意見ありますか。

健康推進課さんお願いできますか。

事務局：すいません。マイクの音声がちっと聞き取りづらい部分がありましたので、すべて回答になるかどうかわからないのですが、お一人お一人、支援プランの方を作成するのかというところにつきましては、一人一人全く別のものを100人いたら100通りのプランを作るというわけではないのですが、基本のプランというのがありまして、その方、その方に合うように、プランの方を組み立てていくっていうイメージを持っていただくとわかりやすいかなと思います。

基本的には一人一人、プランの方は作成しております。

子育て世代包括支援センターで何をしているのかがちょっとわかりづらいとかいうことがあるかもしれないのですが、リーフレットを作成して、基本的に妊婦さんですと、母子手帳の交付で、支援センターに来ていただきますので、その方やご家族の方には、リーフレットに沿って、何をしているのかっていうところも、面接の時に、割と詳しく説明はさせていただいております。

それから、市ホームページの方でも、基本的にはリーフレットと同じ内容の事業についてですとか、どういったことをしているのかというところは、紹介はさせていただいておりますので、また、そちらの方も参考にさせていただいたりとか、先ほど言っていたいただいたような、何か困ったことがあったら、子育てとか育児に関して、保健師とか、相談を受けた方がいいようなケースがありましたら、紹介させていただいたりっていうことをさせていただけるといいかなと思います。

会 長：健康推進課のお話でしたけども、質問者の方はそれでよろしいですか。

委 員：はい。ありがとうございます。

会 長：はい、ありがとうございます。

他の方はどうでしょう。

僕の方から一つお願いします。

総合教育センターのところになるのですけれども、教育相談のところ、子どもの教育のこと、学校のこと、友達のことを気軽に話ができる場として、相談窓口を設置しているということに対応されているということなのではけれども、子どもたちがその相談に行くっていうのは、大人が相談に行くのと違って、かなりなんというんですかね難しい部分があるんじゃないかなってちょっと思うんですね。担任の先生も含めて、人的なパワーがその仲立ちをしてあげるっていうようなことってのは実際になさっているのかどうか伺わせてもらえますか。

つまりその子どもがお家のこととか、学校のこと、心配だ、辛い、苦しいとか思っている子がいた場合ですね、自らがもちろんその窓口に行って、訴えるっていうこと等あるとは思いますが、そうでない子どもたちもいると思うのですよね。その間に、先生が入ってくれて気軽にその子の思いを話ができるような、そういうような形での、子どもたちへの働き掛けは具体的にされているのでしょうか。お願いします。

事務局：はい。ご指摘いただいた通りだと思います。

子どもたちがですね、悩みを抱えて相談できる体制というのが本当に必要だなというふうに思っております。

ただ、それをどのように子どもたちに伝えるか、例年そうですけれども、子どもたちに対して悩みがありましたら、総合教育センターというところがあって、話を聞いてくれますよというような、子どもたちにわかりやすいチラシを作りまして、

ふりがなもふってですね、いつでも相談してくださいというふうに、配らしてはもらっております。現在のところ子どもたちから直接こちらへ電話してくるという事は、昨年度1件あったと思うのですが、ほぼ無いような状態です。

ですけれどもやっぱりおっしゃる通りですね、子どもたちからないということで、本当に悩んでないのかということそうではないと思いますので、できるだけですね、そういったところアンテナを高くして、受け入れ体制の方に臨んでいかなければならないのかなと、常々思っているところでございます。

学校とかからも情報をしっかり掴み取りながら対応していきたいというふうに考えております。

よろしく申し上げます。

会 長：ぜひそのようにしてください。

辛くて、苦しくてっていう子どもたちの声をですね、やはり大人がしっかり受けとめていく体制っていうのはすごく大切だと思うのですよね。

こういう施設があるよっていうだけではなくて、そこへ行くことによってね、自分の気持ちを打ち明けられるっていう雰囲気をやはり子どもたちに与えてあげなければ、せっかく立派なセンターであっても、機能を果たさないってことになってしまって、何かこう事故や事件が起きたときに対応していくっていうことも少なからず見られる。それはすごく残念ですよね。

これからの子どもたちですから、そういう苦しい状況に置かれている子がいたら、とにかく話を聞いてあげて解決に向かって努力していく、支えていくことこそが、教育の最も大事なことだと思いますので、ぜひそういう子たちにも、ちゃんと目を向けてあげて、話ができるようなかけ橋になっていって欲しいなと強く思います。

それからもう一つですね同じように総合教育センターの方お願いしたいのですが、教職員の研修のところなのですから、ご存知のように今まで続けてきた教員免許状の更新講習が文科省の説明にあった通りですね、行われなくなることになって、次回どうするかっていうところの議論になっていると思うのですが、その功罪はいろいろあります。

僕も研修の講師をしていましたので、それでいいのかなあ、なんて思うことも随分あったのですが、見直されるのかどうかわかりませんが、先生方ですね、やはり授業に向かっての取り組み方っていうのは、やっぱり質を上げていくためにどうしても必要なんですね。

研修の考え方として、年に1回、年2回とか受ければいってことではなくて、一人一人の先生方が研修を受けることによって、自分の足りない部分ですね、指導力とか説明力とかですね、そういった授業の中で大事なところを補っていく、自分がそこをしっかりと学んでですね、前に向かって行けるような、積み重なる研修っていうのですかね、そういう制度っていうのも、やっぱりきちっと考えていく必要があるのかなって僕はいつも思っています。

例えば気になる子っていうのはよく保育の現場で使うのですが、そういう

子どもがいた場合に、対応がうまくできる方とあまりうまくない方いらっしゃるのですね。

そういう時に、そのことにその先生が自分の課題として捉えてですね、積極的に研修を受けていくとかですね、教育実践を報告するとかしながら、その弱い部分、自分にとって気になる子たちへの対応が不十分だなあとかですねそういった思いの中で自分をこう高めて行くような研修っていうのは、僕はあるべきだなというふうに思います。

何かこう、順番に今年はこの人、来年はこの人みたいなのではなく、それぞれの教師が抱えている問題も含めて、それを解決できるような、そして解決をしたらそれを次のステップに持っていけるような、積み重ねていく研修っていうのは、私はこれから必要なのだっていうふうに思っています。

そういったところでの考えはどうでしょうか。

事務局：研修についてですけども、おっしゃられますように、自分を高めていくというのが基本原則かなと思っております。

それぞれの研修について、各担当者を基本として参加していただいておりますけども、特に担当者に限らず参加できる方は参加していただく予定で、研修の方に臨んでいただいております。

やっぱり自分にとって足りないところ、そこを補っていただくというためにですね、ぜひとも参加していただいて自分のものにしていただく。研修の中で、自分が置かれている立場で研修の内容を、自分に置き換えた形で受けていただくということで、より身につくものがあるかというふうに考えておりました、そのように臨んでいただいております。

先生方がどのような研修を望まれているかということも踏まえながらですね、広く管理職から教諭までですね、対応できるように、研修の方を組んでいきたいと考えておりますのでよろしくお願いします。

会長：ありがとうございました。

期待していますので、ぜひよろしく願いいたします。

子どもたちにとっては、先生は本当に身近な大人のモデルなのですよね。

ですから、先生方がきちっと対応して行ってくれないと、子どもたちもね、なかなかこう前に進めないことも多いと思います。

ぜひ、力をつけていただいて、どんな子どもに対してもね、きちっと教育の機会が保障できるように、その子が育っていく権利を保障してあげられるようにして欲しいというふうに思っていますので、ぜひお願いしたいなと、これは私自身の思いですけどもそう思っています。

他の方はどうでしょうか。

委員：今まで聞かせていただきまして保育所、幼稚園、学校関係の環境整備施設というのが、年々着々とその時その時の課題っていいですかコロナ禍とかにも合わせて、

トイレの改善ですとか、そういうふうにして進められていくっていうところには安心いたしました。

一方で、これまで行ってきたアンケートとか、そういうことのところで出てきました公園とか、歩道など、安心安全な遊び場やインフラの整備ってところが、どちらのアンケートでも、未就学の方のアンケートも、小学生のアンケートの中にも、とても高い割合で出てきていたかと思います。

このことにつきましては、目標も 60 ページの方で、子育てを支援する生活環境の整備というところで、目標として挙げていただいているのですが、なかなかこういうところが今どのような状況になっているかとか、そういうところが、会議の中でも見ないといいますか、出てこないような気がしますので、今の段階で、もし分かるようなところがあれば教えていただきたいなというふうに思います。

会 長：ありがとうございました。
担当課をお願いします。

事務局：すいません。こども家庭課事務局です。

会 長：はい。お願いします。

事務局：施設の整備についてですけれども、今、最初の方の資料の方でとかでもご説明をさせてもらったところがありますけれども、比較的志摩市の場合、幼保園につきましては、まだ新しい施設なので、ちょこちょこした修繕的なことはあるのですけれども、旧町時代から引き継いできている保育所がまだあります。これらについては、先ほど安乗保育所の話もあったかと思います。それから遊具関係の修繕関係もあったかと思います。これらについての、計画を持ってというようなところのそういう計画書みたいな物に準じて整備を行っているわけではないのですけれども、やっぱりその現場の方からの声で、傷んできている部分につきまして、やっぱり早急な対応が必要というふうなところに、予算を付けさしていただいて整備をしてきているというようなことが、今こども家庭課で整備をしてきているところになります。
以上です。

会 長：はい。ありがとうございました。

委 員：すみません。私も幼稚園、保育所、学校の中で、本当に丁寧に点検されて、修繕やら新規についていうようなところがよく分かっているつもりなのですが、ここに保護者の方たちが挙げてくださってあるのは、アンケートでも出てきたのは、地域の公園や広場で安心して子どもたちを遊ばせる、そういうところがやっぱりあったらいいな、ずっとまた整備も続けて欲しいなっていう希望がアンケートでも出てきておりましたし、実は最近もそういう声を地域の中から聞いたものですか

ら、もし、その地域の公園や広場というところで、市としてはどのような対応をなさって、計画があるのかなっていうふうに思いましたので、そのことをお聞きいたしました。

会 長：ありがとうございました。
はいどうぞ。

事務局：すみません。こども家庭課ですけども、先ほど公園関係の話をなされたのですが、どうしても公園とかになりますと施設関係だけではなくて、市全体のことを考えていけないといけないのですが、担当部署とかが違うのかなと思ったりもします。また、その中で話の中でインフラ整備、歩道のインフラ整備っていう話も出されておまして、道路管理者ですね、あと、施設、小学校であったり、保育所、幼稚園であったりの通学とかですね、施設に行くまでに危ない箇所なんかを、例えば道路に、グリーンのラインを引いてですね、車両の運転手に、ここら辺を通るっていうのを周知してやるわけですね。そういったことは公安委員会も含めてですね、地域と話をして、整備なんかをしておる状況にあります。
なかなかすべてにはないのですけども、現在、そういう対応もさしていただいております。
以上です。

会 長：ありがとうございました。
いろいろこの整備もですね、インフラの部分を取り組んでいるというお話でしたので、少し様子を見ながらですねまたお気づきの点があればご指摘いただければと思います。
質問者の方それでよろしいでしょうか。

委 員：ありがとうございます。
またどうぞよろしく願いいたします。

会 長：はい。ありがとうございました。
それではそろそろ時間もきていますので、この事業についての報告についてはこれで終わりたいと思います。
それでは事項書のですね3の方に移りたいと思います。
先ほども説明がありましたけれども、志摩幼保園高台の移転計画の進捗状況についてというところになります。
説明を事務局の担当者よろしく願います。

事務局：はい。こども家庭課ですが、志摩幼保園高台移転計画の進捗状況についてということで、現在のスケジュールを資料2の方に添付させていただきました。
そちらの方をお願いいたします。

現在、志摩幼保園の方はですね津波の浸水想定区域内に立地しているため、高台であります旧布施田小学校跡地へ、新築移転を計画しております。

令和3年度から5年度のスケジュールになるんですが、上から測量業務、用地業務、設計業務、工事ということで左の方に書かせていただいております、令和3年度は、用地確定測量や地形測量の測量業務を行いまして、土地の境界や現在の地形を調査、測量しました。今、現在不動産鑑定評価の結果を基にですね、地権者の方と用地交渉を進めております、令和4年度の早期に分筆登記までして、用地を取得できるように進めておるところであります。

続いて設計業務の方なのですが、この中段ぐらいのところですけども、現在公募型プロポーザル方式という方式のもので、設計業務を発注させていただいております、この3月中旬に業者を選定させていただいて契約を進めたいと考えております。

主に令和4年度になりますけども、建築と道路の設計業務を行う予定です。

令和4年度には、地元の方や保護者の方との意見交換を重ねてですね、実施設計に反映していくとともに、公安委員会など、関係機関との協議を進め、年度内に確認申請を行い、工事発注の準備を行う予定です。

続きまして令和5年度は主に工事を予定しております。

建築工事を行って、道路工事と効率よく進めるように、発注時期を調整しながらですね、早期の完成を目指していきます。

あと建物の完成に合わせて、備品等購入して、引っ越し等の開設準備を行います。こういう予定ですけども令和5年末の開設を目指して、一生懸命頑張っておりますのでまたよろしく願いいたします。

会 長：ありがとうございました。

今移転事業についての進捗状況についての説明、スケジュールを含めて説明いただきました。

ありがとうございました。

何かご質問等ございますか。

会 長：ちょっと基本的なことを伺わせてください。

志摩幼保園っていう名前なのですが、認定こども園とかこども園があちこち今出てきているんですけども、幼保園って付けたのは、認定こども園とはまた違う形を目指しているということでしょうか。

事務局：現在が幼保園ということで、その延長での高台移転なので、こう表記しているのですが、先にはですね、認定こども園も考えていかなければということで課の中では話をしています。ですので、どういう方針にはなるかわからないんですけども、当然、途中で認定こども園ということも考えております。

会 長：ありがとうございました。

認定こども園が用語としてよく使われていたものですから、おそらく今、ご指摘の通りですね進めていく上で、市民の方たちの理解もいいのかなっていう気はちょっとしたものですから、余計な質問をさせてもらいました。

幼稚園・保育園、あるいは認定こども園って3つ出てきたのですから、役割とか機能が理解されないところも実はあったりするのですから、できるだけ言葉はですね、一つになっていくと、どの方たちにも理解しやすいのではないかと、ちょっと僕は思うものですから、もし、似た様な形式で運営されていくのだとしたら、そういった言葉がやはり、今後ですね検討されていいのかなっていうふうにちょっと思いましたので、質問させていただきました。

ありがとうございました。

他の方どうでしょうか。

この移転についてのスケジュールも含めてですね、説明がありましたけれどもこれでご了解いただけますか。

よろしいですかね。

はい、今回の事項書のところについてはこの3番まで終わりました。

最後の4番目のその他になります。

事務局の方で何かございますか。

事務局：事務局から少し連絡をさせていただきたいと思います。

会 長：はい。お願いします。

事務局：本日、委員の皆様からいろいろご意見をいただいたことにつきましてはまた事務局持ち帰りまして、検討し今後の事業に反映をさせていただきたいと考えております。

本日、会議にご出席いただいた皆様に関しましては、また報酬や費用弁償をお支払いさせていただきますので前回の第1回目の会議と同様の口座の方へ振り込みをさせていただきたいと思います。

今回でこの会議の委員の任期の2年間が終わりますので、また各団体の方にですね、ご推薦依頼をさせていただきまして、新たに4年度からの委員の選出をお願いしたいと思います。

また、引き続き委員等に選出される方も見えるかもしれませんのでまだ新年度に委員になられた際には、よろしくお願いしたいと思います。

私からの連絡は以上です。

会 長：これですべてですか事務局の方、他の方は大丈夫ですか。

ありませんか。

あと委員の方、何かご発言ありますか。

よろしいですか。

はい。

わかりました。

これで今回、会議を終わらせてもらいますけどもコロナということでこういう形をとらせていただきました。

やってみて、ちょっと音声聞き取りづらかったところも、実は僕の方もあったんですから、オンラインで進めていくことの難しさっていうのをすごく経験した訳ですけども、早く収束してもらって、実際に対面でいつもの会議になるように願っているのですが、なかなか三重県一つとっても高止まりしているような状態で、その状況が見込めないということから言いますと、僕たちが今、いろいろ検討している事業についても、先ほど報告にあった通りですね、できなかったとか縮小せざるをえなかったっていうこともあって、ちょっと先が見通しづらいのですが、報告にもありました通り、担当者の方々がですね本当に努力されて、事業をできるだけそのいい方向へ持っていこうと推進していこうとしているのが報告の中にあっただと思います。

委員の方々も、いろいろご意見をいただきました。

とにかく子どもたちのためにですね、いい方向へ向かっていくように、もう本当に困難な状況ですけども、ご意見伺いながら、子どもたちが志摩でしっかりと生きていけるように、頑張れるように、そういう社会をやっぱり作っていかないといけないと思いますので、ぜひこれからもですね、ご協力いただければというように思っています。

ちょっと時間がどうだったかわかりませんが、これで私の方の進行は、終わらせていただきたいと思います。

事務局の方はこれでよろしいでしょうか終わらせていただいて。

事務局：はい。ありがとうございます。

では次回は各種団体の役員等が決まってからになりますのでまた令和4年の6月ぐらいに開催をしたいと思います。

今日はどうも、ご出席いただいた委員の皆様へとオンラインでご参加いただきましたが、会長、各担当の皆様今日はどうもありがとうございました。

どうもありがとうございました。

失礼します。